
参考

乾式ワイヤーソー

積算(例)

1. 積算「例一1」

1-1 積算条件

当初与えられた条件として

- コンクリートの鉄筋量 0.7%
- コンクリートの平均厚 0.7m
- 切断1断面の平均面積 2 m^2
- 切断面積の総和（施工数量） 50 m^2

上記の条件で、施工計画をたて検討した結果、次のとおり計画されたものとする。

- 機械セット数 1セット
- 労務編成
世話役 1人
特殊運転手 1人
普通作業員 2人
- 作業時間 拘束8時間（実働7時間）
- ガイドプーリ設置数 4個

1-2 積算手順

(1) 1日当り作業量の算定

$S = T * C * E$ の式において

$T = 7$ (H)

$C = 1.3$ …………… 中配筋コンクリート (0.7%)

$E = E1 * E2 * E3 * E4$

$= 0.7 * 0.8 * 0.8 * 0.9 \doteq 0.403$

よって、 $S = 7 * 1.3 * 0.403 \doteq 3.67$ (m²/日)

(2) 1日当り工事費の算出

イ) ワイヤソー機械運転 (1日当り)

1号単価表により求める。

1号単価表

名称	単位	数量	単価	金額	摘要
ワイヤソー機械 機械損料	日	1		32,964	機械損料算定表(P-19)
乾式装置	日	1		14,821	機械損料算定表(P-19)
ガイドプーリ	個	0.2	75,000	15,000	平均2個、耐用10日(70H)
特殊運転手	人	1		24,000	
計				86,785	

- ロ) 発電機運転 (1日当り)
2号単価表により求める。

2号単価表

名称	単位	数量	単価	金額	摘要
機械損料	日	1		4,961	機械損料算定表 (P-19)
主燃料	L	67	80	5,360	0.127*75PS*7H
油脂類	式	1		1072	主燃料*20%
計				11,393	

- ハ) その他機械・器具 (1日当り)
3号単価表により求める。

3号単価表

名称	単位	数量	単価	金額	摘要
ワイヤ-圧着工具	日	1		978	機械損料算定表 (P-19)
ガイドプーリ	日	0.4	75,000	30,000	4個、耐用10日 (70H)
プーリスタンド	日	0.07	85,000	5,950	2個、耐用30日 (210H)
安全防護板	枚	0.33	46,000	15,180	20枚、耐用60日
計				52,108	

ニ) ダイヤモンドワイヤー1日当り消耗長

P-18のグラフより、ワイヤー1m当たりの寿命は $0.28 \text{ m}^2/\text{m}$ 、1日当たりの作業量が $3.67 \text{ m}^2/\text{日}$ であるから、1日当りのダイヤモンドワイヤー消耗長は次のとおりとなる。

$$3.67 \div 0.28 \approx 13.1 \text{ m}$$

ホ) 1日当り直工費の算出

内訳書により求める。

内 訳 書

名称	単位	数量	単価	金額	摘要
ワイヤー機械運転	日	1		86,785	1号単価表
発電機運転	日	1		11,393	2号単価表
その他機械・器具	日	1		52,108	3号単価表
世話役	人	1		25,000	
普通作業員	人	2	18,000	36,000	
ダイヤモンドワイヤー	m	13.1	55,000	720,500	55,000～75,000
				931,786	
雑品	式	1		18,636	上記計……・2%
合計				950,422	

(3) 切断直工費の算出

イ) 所要日数の算定

$$N = A/S = 50/4.08 \div 13 \text{日}$$

ロ) 切断単価の算出

$$X = y/s = 950,422/3.67 \div 258,970$$

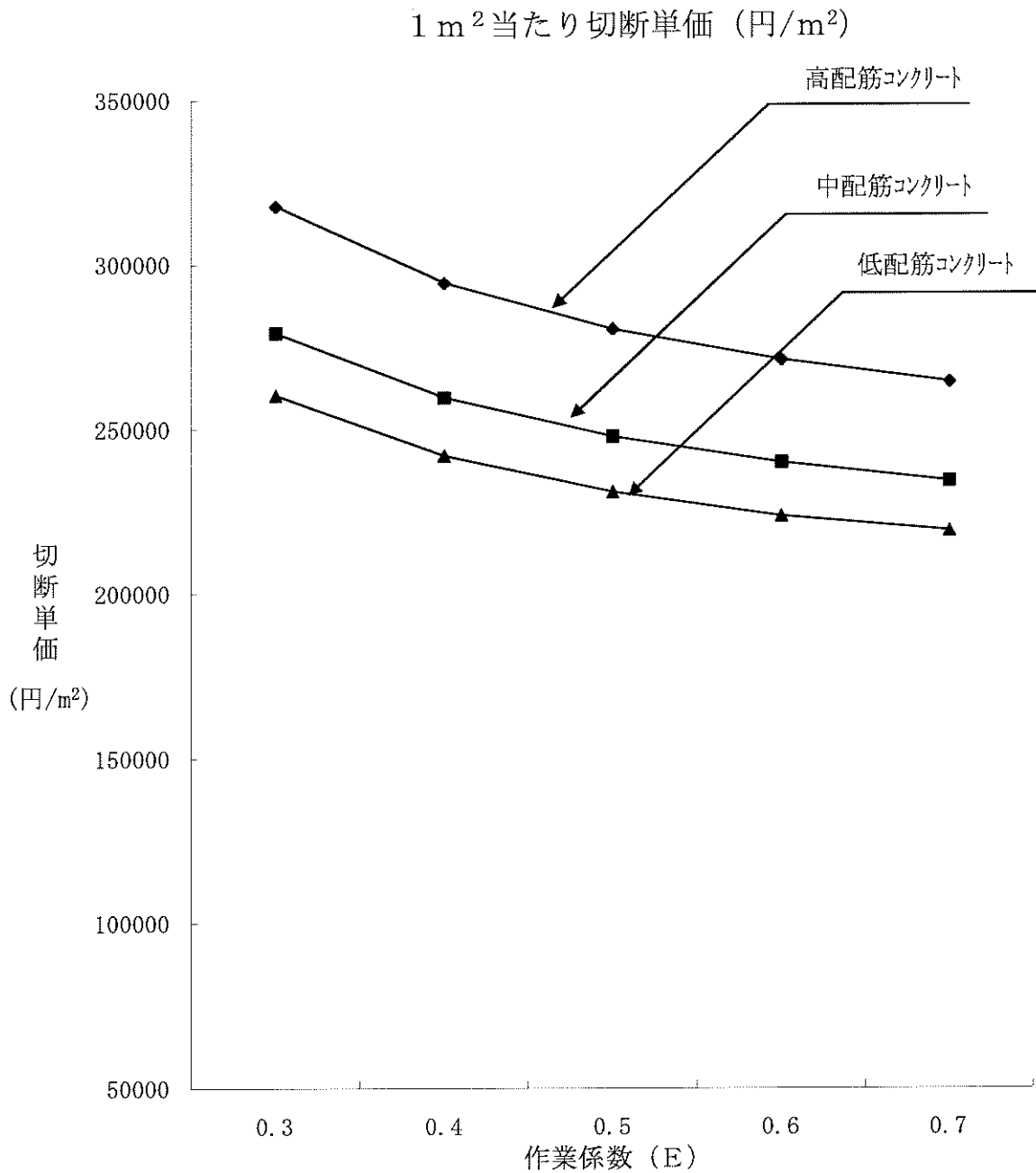
ハ) 切断直工費の算出

$$Y = X * A = 258,970 * 50 = 12,048,500$$

3. 標準直工費

3-1 気中切断標準直工費

切断単価(円/m ²)		0.3	0.4	0.5	0.6	0.7
高配筋	E	317,695	294,371	280,377	271,048	264,384
中配筋		279,299	259,564	247,722	239,828	234,189
低配筋		260,303	241,977	230,982	223,652	219,262



図一 1 気中コンクリート切断単価 (円/m²)